

平成28年度第1回総合教育会議録

1. 日 時 平成28年11月14日(月)午後3時50分～午後4時50分
2. 会 場 役場会議室
3. 出席者 石井教育委員 木内教育委員 村田教育委員
田邊教育長 青木教育次長
小林町長 遠藤総務課長

4. 協議内容

町総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により町長が議長となって会議を進行。

◇田邊教育長より平成28年度における取組状況について説明を受ける

①フッ化物洗口の取り組み

小学校で毎週月曜日の朝に実施。大変スムーズに行われている。朝、15分間の時間を取っているが時間が余るので、その時間を朝読書タイムとして活用している。

②コミュニティ・スクールの取り組み

先月の教育委員会会議で「学校運営協議会規則」を制定。町の学校管理規則の一部を改正した。制度的には取り組めるようになっている。

コミュニティ・スクールについては、管内の研修会に各教育委員も出席し、どういうものか共通理解を得た。推進方法については、栗山町方式により「教育委員会から学校にコミュニティ・スクールをやりなさい」ではなく「学校から、たくましい子どもを育てるコミュニティ・スクールを行いたい」と申請書を提出する形で取り組む。試行ではあるが、実質的にはコミュニティ・スクールを実施するもの。回数については、初年度で4～5回。報酬もしっかり支払う。人数的にどうしてもうまくいかないのであれば、小中一つにした学校運営協議会でも構わないとの考えでいる。いずれにしても、コミュニティ・スクールを行っていく土台は整っている。

③土曜日授業の取り組み

小学校で5回。中学校で7回授業を行っている。小学校では、当初、子どもから「なぜみんなが休みなのに学校へ行かなければならないの？」との声があった模様。今は、無い。小中ともこの取り組みにより授業時間が確保されている。

④学力・体力の向上の取り組み

全国学力学習状況調査については、昨年から公表している。状況は、点数だけで見れば小学校は低下しており、全道平均レベルに達していない。

運動能力に関しては、母体数が少ないので一概には言えないが、中学生の男子の運動能力についてももう少し元気にならないかと感じている。小学生については、まずまずである。

⑤複式学級の取り組み

今年度から小学校3・4年生で複式学級になった。先日、複式学級の授業を見学してきたが、複式の授業ルールについては、子どもたちは十分理解している。他の学年の授業をしているときは、自分たちは自習しているか自分たちで学習しているスタイル。各学年には学習リーダーがいて他の学年の授業のときは、その学習リーダーの主導で学習が進む。

複式は、教員も子ども達も成長させる。算数などでは、4年生の授業を3年生も聞くこととなるので、何かしら感じる点があり、3年生が4年生になったときにそのことを覚えていて、思わぬ効果を生むことになる。

一方、教員の数が減少しているので、職員室に少し元気がないように感じる。運動会や学芸会で当初、競技や演目を少なくする、時間を短縮することが協議されたが、PTAの意向に応える形で昨年並みの取組となった。

⑥英語教育の取り組み

現ALT(ダリンさん)は、こども園での指導が一番うまく運んでいるように感じる。但し、ALTが一人であることから相談する人がいないなどの悩みを持っている。その点から、もう一

人AETが必要との思いがある。

⑦子供たちと町長との懇談の取り組み

本件については、中学校の生徒会役員と小学校6年生有志と懇談する機会を設ける予定である。日程は、確定していないが必ず開催したい。

⑧放課後こどもプランの取り組み

本プランには、20名近くの参加があり、指導者も常時3～4名程度が協力していただいている。プランでは必ず宿題を行う。体験活動等、学習以外のことも行っている。毎週金曜日は「おやつタイム」で子どもたちの楽しみの時間になっている。

※本町の子どもたちは穏やかな学びと健やかな成長、ある意味手厚く支援されて育っていると感じている。教育は息の長い取り組みで、数値目標がすぐに実現するということではなく、その点については悩むところ。

◇石井教育委員

○教育施設も見直し

中学校の改築・小学校の補修・スキー場の整備に関して気になるところ。自身でも他の施設も見て回りたいと思っている。今後、教育施設の整備がどうなっていくのか気になる。

◇木内教育委員

○教員の確保

人の面から町でどう確保していくか。自身も会社でも職員の確保は中々難しいが、是非とも町で教員の確保をお願いしたい。

◇村田教育委員

教員の確保について、給与を少し高くしていただき、その分、土曜日や日曜日の行事にも参加してくれる形になれば。議会で給食費の無料化の話があったが、親としてお金ではなく物での支援が良いのではないかと。物であれば子供に直接いくこととなる。(例えばランドセル) お金であれば、それがどこに消えているのかわからない。経済的に支援していただくことはありがたいが、子どもを産むときにはあらかじめ計画していると思う。この町で子どもをこう育てられるというものが大切ではないか。

子どもの選挙に関しては、実際に子どもたちに体験させることが必要。

■小林町長からの意見

○子供たちの健康に関して、取り組みが確定していないが「子どもの健康診断」を実現したい。子どもたちの食生活に課題があり適切な時期に健康診断を受けてもらうことで考えていきたい。

・小学校1年生、4年生、中学校1年生で心臓検査が実施される時に、血液検査で生活習慣病予防(脂質、糖尿病、肝機能)の検診を保健福祉課と連携して行いたい。来年度には予算計上をして進めていく。(田邊教育長)

○北海道全体として健康意識が低い。こうした取組を通して親としても考えてもらうことに繋がる。道内の中でも先進的に実施しているところもあり、その取組により改善している。中には、小学校低学年から重度の成人病となっている。その子を早い時期に対策を取る上でも重要。

○心の面でも名寄の「あべクリニック」の先生に、月1回大人を中心に関わってもらっている。子どもの心の問題も行ってもらえる先生である。子どもの心のケアにも広げていきたいと考えている。

○コミュニティ・スクールについては、是非、良い方向で進めていただきたい。

○学力・体力の向上に関しては、もっと向上できないかな～という思いはある。

○複式学級に関しては、複式による利点はあるとは思いますが、町費負担の教員の確保に向け対処していただければと考えている。

○英語教育に関して、ALTを複数配置する。こども園の生活発表会で英語の歌などとても流暢であるが、中学生との落差を見ると少しもったいないと感じる。学校の中での特別な編成があっても良いと感じてはいる。

- 子供たちとの懇談は、余り仰々することなく対応したい。選挙の取り組みに関しては、以前、市町村合併について子どもたちに合併の是非を投票してもらった。何かを選ぶというより住民投票のようなこの町での課題に関して問うこともいいのではないかな。
- 放課後こどもプランは、しっかりと福祉と教育（児童クラブと子ども教室）を一つにさせていただき良かったと思っている。さらに充実していくように対応していただきたい。数値目標にこだわることなく、子ども一人ひとりが人間としての力を培って成長していく視点で、皆が共有できればと思っている。
- 教育施設についてスキー場の整備に関しては、国の支援制度が無い状況。何とか財源の確保を模索しているが、なかなか無い状況にある。但し、危険なままで運営していくわけにはいかない。予定では、来年度設計、その次の年に改修に入れるようにとの思いである。
小学校・中学校の今後について、義務教育学校の形で小学校中学校が一つになっていくとしたら、どこにどのように施設整備をしていくことが望ましいのかを考えていくべきか。まず、両校とも改修して将来的にはどうすべきなのかを考えるべきだが、自分自身の中でスキッと落ちていない。基本的には、中学校の方に将来小学校を持っていくことで一回整理されていることは理解しているが、それでいいのかという気持ちがある。改めてその辺は議論したい。
- 独自の教員確保の上で、給与を高くすることで確保しやすくなる点と土日での地域行事への参加して欲しいとの面からできたが、現状、先生方の地域行事への参加状況はどうか？学校支援地域本部では、地域も学校の先生方の負担を軽くすることを含めて色々応援しようというところ。一方で先生方も地域の活動に参加してくれたらな。という期待はあった。
- 給食費の無料化に関しては、まだ、議論していない。もう少し時間をかけたい。
- 妊娠時から子育てが始まり、高校を卒業するまでを総合的に町として支援していく考えである。特に、高校生に関しては、地元で高校が無いことから浜頓別高校に通学する生徒に通学費を助成しているが、これでいいのか。親の負担が大きい時期に負担軽減をしてやる必要があるのではないかな。
「地域は子供たちのことを大切にしています」との伝え方を考えていきたい。
- 出生祝も当時お金がない時代だったが「おむつ」を贈るとか、お祝いの気持ちを伝えたいという視点から支援制度を考えていきたい。

◇田邊教育長

学校の先生方の地域行事への参加は、子どもたちが地域のイベントに係わっている時は、参加しているが、終わると帰ってしまう。子どもたちの係わりが少ない場合は、先生たちの参加は無いように感じている。スポーツイベント等に先生たちが出場すると、参加する子どもは増えると思う。先生方との互助会レクなどで参加を促すもプライベートを重視する傾向がある。

◇木内教育委員

先日、就職課に行って来たとき、今の若い人たちは、まずは休みが欲しい。給料を上げるよりも土曜日・日曜日が必ずあるところを選択する。

◇村田教育委員

先程の給料を高くすることで、土日の事業に先生が仕事として参加して、先生が声をかければ子どもは、色んな事業に参加するようになると思うので、そうした方向に向けばいいと思う。

◇田邊教育長

絶対数として期限付教員が足りない。どうしても都市部に流れる。地方でも交通の便の良い所に行きたがる。「宗谷」となれば、行くところが決まっても断る。来ない状況にある。

■小林町長

施設関係は、とにかく将来的なビジョンを見定めることが必要と考えている。但し、子どもたちには、早く良い環境を整えてやりたいという思いはある。

◇田邊教育長

沼田小学校のような環境が望ましいと感じている。教室は、オープンで採光が良く、開放感があ

る。また、斬新なデザインで校内に入るとここは学校か？という感じである。電気暖房で雪冷房。

■小林町長

財源のことを言えば環境・自然エネルギーなどの省エネ等により、義務教育系補助以外の制度も活用していく可能性を考えている。

◇石井教育委員

学校の整備に関して、従前の敏音知の学校が10年で廃校となったので、中々踏み切れないところがある。

◇田邊教育長

義務教育学校は、校長は一人。また、英語、数学、理科、体育等は中学校の専門の先生が小学生を指導できる。自分としては、小中併置校ではなく「中頓別義務教育学校」として新しい学校を整備することが望ましいと考えている。今の小学校を工夫して整備することも一案と考えている。

■小林町長

個人的には、小学校の方が新しいし、そこにという考えはある。あくまでも個人的な感想。過去の議論と相反する面もあるがその考えでいいのかなとの思いもあり踏み切れない。

町民センターの利活用の問題も気になっているし、将来のことを考えると町にある公共施設を減らす必要がある。施設をマルチに活用していくことができる空間づくりを考える必要がある。

今後も複数回にわたって意見交換を行っていきたいと考えています。

以上
記録：遠藤